

参考資料一覧

- 参考資料 1 . 二酸化炭素海底下地層貯留について
- 参考資料 2 . ロンドン条約及び 96 年議定書の概要
- 参考資料 3 . 96 年議定書附属書 I の改正内容
- 参考資料 4 . 二酸化炭素流海底下処分に関する評価ガイドラインの概要
- 参考資料 5 . 二酸化炭素海底下地層貯留に関する技術について
- 参考資料 6 . 諸外国の関連制度について
- 参考資料 7 . 二酸化炭素地中貯留に対する地震の影響（平成 16 年新潟県中越地震の事例）
- 参考資料 8 . 気候変動枠組条約締約国会議（COP）及び京都議定書締約国会合（COP/MOP）等における二酸化炭素回収・貯留（CCS）の検討状況

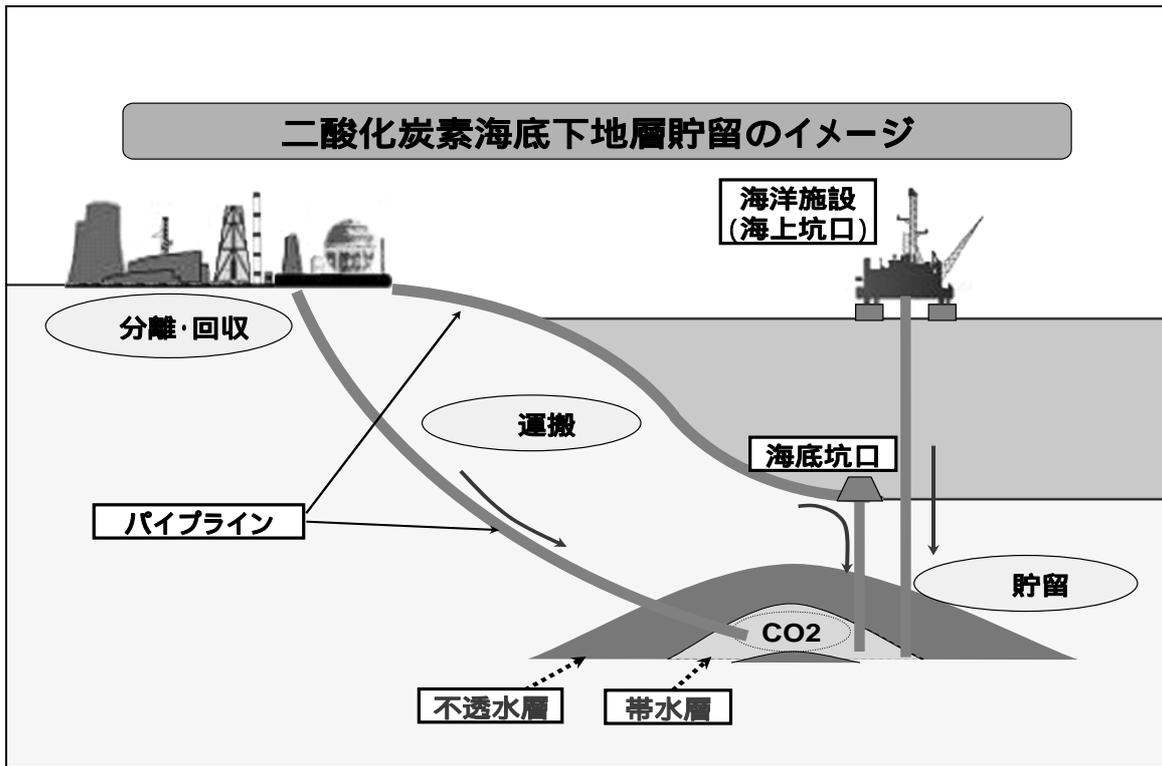


図1 二酸化炭素海底下地層貯留の概念図

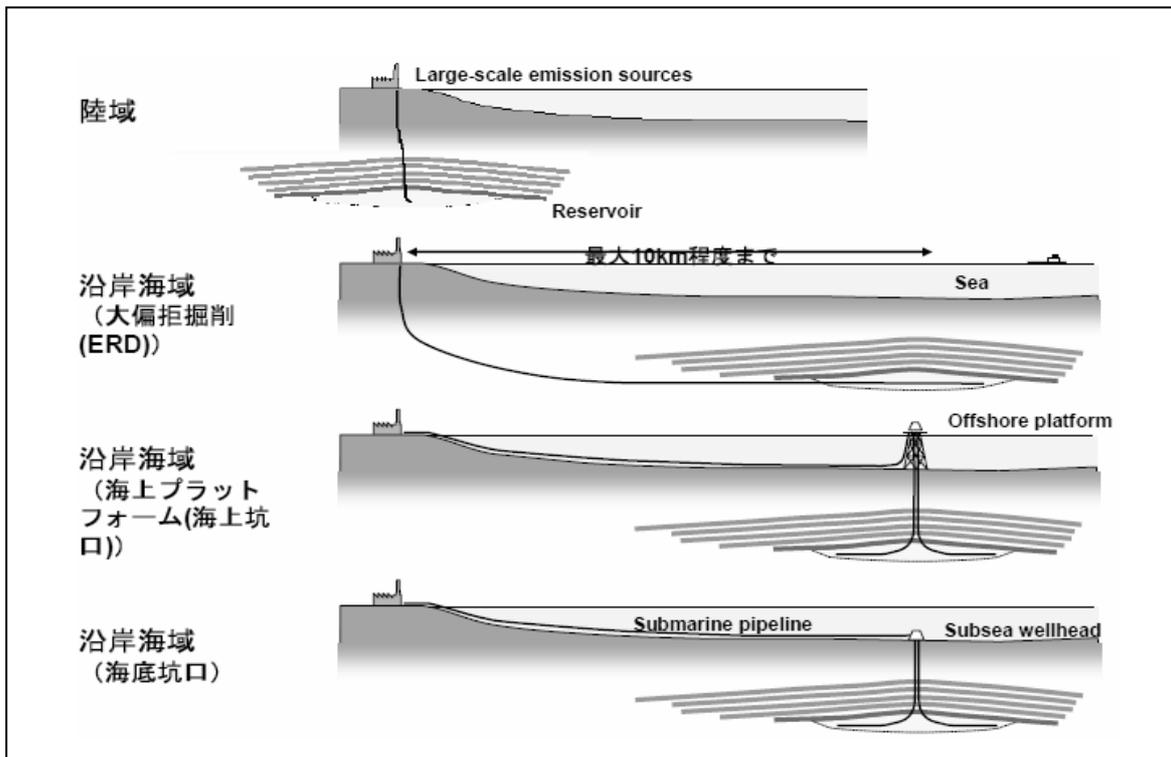


図2 二酸化炭素流の帯水層への圧入パターン

二酸化炭素流の帯水層への圧入パターンには、主として上記の4種類が考えられる。

(出典：国際戦略専門委員会(原典はRITE H17 年度報告))

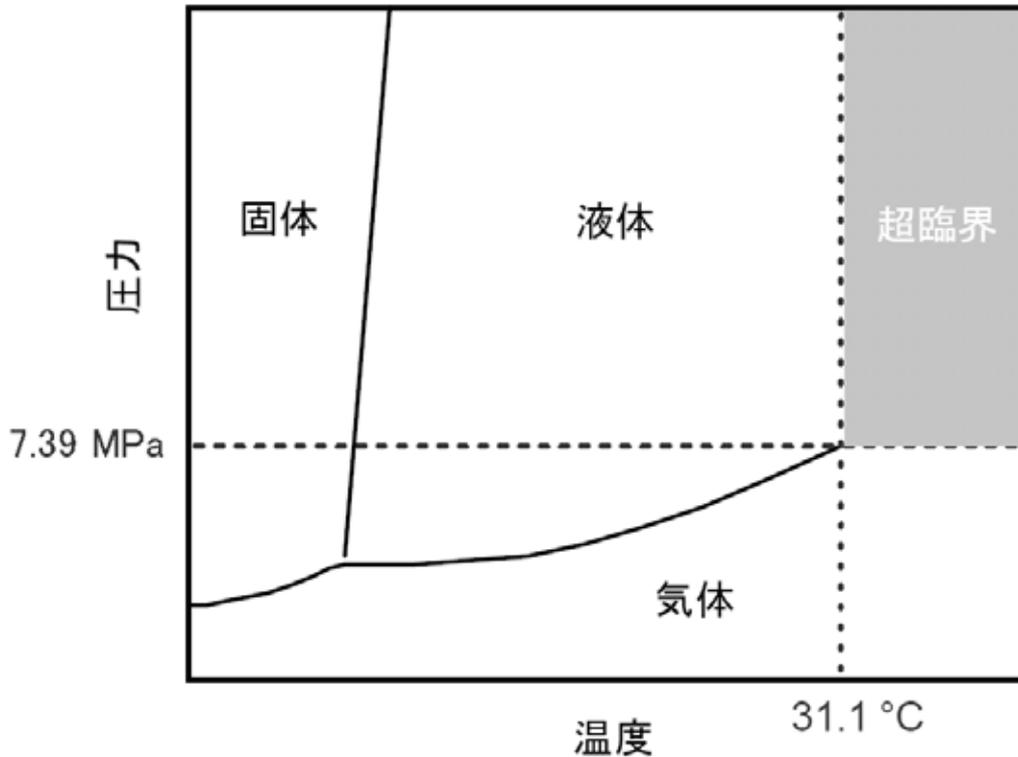


図3 二酸化炭素の物理化学的性状

二酸化炭素の臨界点は7.39MPa（約73.9気圧）、31.1℃である。貯留深度として想定される海面下1,000m以深では、超臨界の状態となる。

地質データ		カテゴリーA (背斜構造への貯留)	カテゴリーB (層位トラップなどを有する 地質構造への貯留)
油ガス田	坑井・震探 データが豊富	A1 35億t-CO ₂	B1 275億t-CO ₂
基礎試錐	坑井・震探 データあり	A2 52億t-CO ₂	
基礎物探	坑井データなし、 震探データあり	A3 214億t-CO ₂ 坑井	B2 885億t-CO ₂
貯留概念図			
小計		301億t-CO ₂	1,160億t-CO ₂
合計		1,461億t-CO ₂	

(註1) 内陸盆地ならびに内湾（瀬戸内海、大阪湾、伊勢湾など）は対象とせず

(註2) 地下800m以深、かつ、4,000m以浅が対象

図4 我が国における帯水層のカテゴリー分類と貯留ポテンシャル

(出典：経済産業省第2回CCS研究会 資料6 (RITE資料) より抜粋)